

求める。星洲日報の社説は、UMNO はここ数年
来、職権乱用、汚職、金銭政治など人々にマイ
ナスのイメージを与え続け、そのイメージを一掃
できない限り、BN が支持を回復することは難し
いと述べる。

マレーシアの人々は、ナジブ首相が演説で誓
った事柄を心に留め、それらが十分に履行され
ているか否かを日頃からチェックし、審判を下す
機会の日に備えるのであろう。

ナジブ首相の経歴

1953年7月23日にパハン州クアラリピスに生
れ、現在 55 歳。著名な政治家を送り出してきた
名門一族の出身である。父親は第 2 代首相の故
アブドゥル・ラザク・フセイン(在任期間:1970年9
月~1976年1月)で、民族間の経済的格差の解
消を目的とした新経済計画(New Economic
Policy:NEP)を導入したことで知られている。ま
た第 3 代首相の故フセイン・オン(在任期間:
1976年1月~1981年7月)はおじに当たり、そ
の息子で現在内務大臣を務めるヒシャムディン・
フセイン氏はいとこにあたる。

クアラルンプールのセント・ジョーンズ学院で
学んだあとイギリスに留学し、マルバーン・ボーイ
ズ・カレッジを経てノッティンガム大学に入学し、
工業経済学で学士号を得た。1974年にマレー
シアに帰国し、マレーシア中央銀行やペトロナス
社に勤務したが、父親が 1976年1月に白血病
で急逝したことがきっかけで政界入りした。父親
の死去により空席となったプカン国会下院選挙
区議員の補選に、弱冠 22 歳で出馬して当選し、
マレーシア史上最年少の国会議員となった。ま
た国会議員 1 年目でエネルギー・通信・郵政副
大臣に任命され、その後も教育副大臣や財務副
大臣を務めた。1982年には、29歳の若さでパハ

ン州首席大臣に就任。1986年以降は大臣職を
歴任し、文化・青年・スポーツ大臣(1986年~
1991年)、国防大臣(1991年~1995年、1999
年~2009年)、教育大臣(1995年~1999年)
などを務め、2004年1月に副首相兼国防大臣
に就任した(2008年9月に国防大臣兼任をはず
れ、財務大臣を兼任)。

ナジブ首相の個人ブログ:

<http://www.1malaysia.com.my/>

英語、マレー語、華語の 3 言語で設置。ナジ
ブ首相の動静や政治的ビジョン、演説、経歴な
どに触れることができる。

■2009.4.12 篠崎香織(北九州市立大学外国
語学部)

ナジブ首相の「1つのマレーシア」

首相に就任して「1つのマレーシア」を掲げた
ナジブが真っ先に行ったことは、町に出てマレー
人、華人、インド人とそれぞれ会うことだった。翌
日の地元紙には、町で人々と握手し、談笑して
いるナジブの様子を示す 3 枚の写真が掲載され
た。ここに象徴的に表れているのは、マレーシア
をマレー人、華人、インド人の 3 つの民族の連合
体と見て、政治経済を含む社会生活のほとんど
すべての面を民族ごとに担当する「民族の政治」
の考え方だ。「民族の政治」への批判が高まり、
民族別でない社会を求めた野党連合・人民協約
が昨年の総選挙で支持を伸ばしていたが、それ
に対してナジブは「民族の政治」をより強化する
というメッセージを発したということになる。

ナジブ率いる与党連合・国民戦線は、国民か
らの支持を回復し、政権基盤を立て直すことが
できるのか。その実現より前に、意外にも早い時期
にナジブが政権を明け渡すことになるとしたら、
その鍵はナジブが首相就任直後に行った 2 つの

ことにあるだろう。

ナジブは国内治安法 (ISA) で拘束されていた 13 人を釈放した。インド系の政治活動家が釈放されたことが注目された裏で、サバで大きな問題となっている身分証明証偽造の容疑がかけられた人々も釈放されている。ナジブは裁判なしに拘束できる ISA を見直すことを表明しており、今回の釈放もそれとあわせて歓迎されるべきことではある。ただし、もし身分証明証偽造が国家の安全に対する現実の脅威だと考えて ISA による拘束を行ったのであれば、捜査を進めて身分証明証偽造の仕組みを明らかにし、関係者を処罰するなどしてこの問題に適切に対応すべきだろう。もし今後そのような具体的な取り組みが見られなければ、今回の釈放は政治的パフォーマンスにすぎず、サバは弄ばれたという印象を与えることになりかねない。これは「1つのマレーシア」からさらに遠ざかることになる。

もう1つはメディア対策だ。ナジブは野党の機関誌の発禁処分を解いた。批判勢力を力づくで黙らせたとしても別の場所で噂が広まり、それを国民が受け入れるという時代の変化に対応して、メディアに寛容な態度を示すかわりにナジブに対する個人的な批判を抑えるという狙いがあるのだろう。しかし、メディアにとって政権批判は重要な役割の1つであり、ナジブに対する批判的な報道をなくすことはあり得ない。ナジブが個人的に抱える疑惑を解消しない限り、批判は繰り返されることだろう。それに対してナジブがどこまで対応できるかはわからない。

サバの人々に新政権への思いを尋ねると、多くの人から「ドリアンが落ちるのを待つ」という答えが返ってきた。ドリアンの実は、木に実っているときに食べると体を壊すので、木から落ちるのを待ってそれを食べろという暮らしの知恵から来た言

いまわしだが、好ましくない事態があっても拙速を避け、時が熟すのを待って、時が来たら行動に出るという意味で使われる。ナジブ政権は好ましくないが、次の総選挙まで待ち、そこで自分たちにできることをすると確認しあっている。ナジブには、その時まで「1つのマレーシア」を真の意味で具体化させるという課題が課せられている。

■2009.4.12 山本博之 (京都大学地域研究統合情報センター)

人事からみるナジブ新政権——ナジブはマハティールの影を振り払うことができるのか

ナジブの新首相就任を挟んで、マレーシアでは重要な政治イベントが目白押しであった。中でも、マレー人党 UMNO の党大会と党役員選挙、組閣、3 選挙区での補選は重要なイベントであった。3月の UMNO 党大会とナジブ新首相就任後の組閣について、一部の報道や、今やマレーシアでは重要なメディアとなったブログの世界では、大勢が事前の予想と違わず、「サプライズ」が少ないことを指摘する声があるが、これまでの UMNO 党人事と組閣の暗黙のルールからすると、無視できない傾向が表れている。

UMNO 党大会では党序列のトップの総裁は党役員選挙のルールによって無投票当選が決定した。党総裁が無投票当選するのは「UMNO の伝統」からするとまず順当な結果である。通常、マレーシアの UMNO 党役員選挙で注目すべきはナンバー3 の副総裁補の選挙である。3 人の議席を争う UMNO 副総裁補選挙で、注目すべきは得票数トップで当選したアフマド・ザヒド・ハミディである。ザヒドは 1998 年の UMNO 党大会当時、UMNO 青年部長として当時の首相 (UMNO 総裁) マハティール批判の先鞭をつけた。その後、党内の「若手」の声に押される形で